

おすすめ本の紹介

読書会で、会員の方々より推薦された本の中から、いくつかご紹介させていただきます。機会がありましたら、ぜひ読んでみてください。



『いのちのまつり*ヌチヌクスージ*』
(作:草場一寿/サンマーク出版)

あっと驚くような、びっくりする仕掛けは、(いのち)の大切さを皆んなに伝えています。



『このあと どうしちゃうの』
(作:ヨシタケシンスケ/ブロンズ新社)

祖父がなくなり、死後について考えていくと、今いきているうちにやりたいことがいっぱいある事に気がつきました。

『夏の庭 The Friends』
(作:湯本香樹実/新潮文庫)

死について知りたい子供たち。ある老人を観察していくうちに、失わないものに触れました。



『ボクものがたり』
(原案:Andyu 舞坂ゆき子/文 絵:いもとようこ)

“犬の目線からある家族に飼われ、捨てられ殺処分される現実のお話です。こんな思いをして亡くなっていく動物達が沢山いる事を知ってほしい本です。

『君の臓腑を食べたい』
(作:住野よる/双葉文庫)

クラスメートの秘密の日記を覗き、彼女が臓腑の病気で長くない事を知り、心を成長させていく物語。



『生きてるのはなぜだろう』
(作:池谷裕二/絵:田島光二/株式会社ほぼ日)

ある日学校で指にケガをした男の子。ケガはどうして治るのか。を入りに人が生きていることの理由にたどり着く物語。



『命をつなげ!ドクターヘリ』
(作:岩貞み/講談社)

絶対に助ける。そんな決意をのせて、空を飛び奮闘する新米医師の目を通して、知られざる先端医療の現場を描く。



『わすれられないおくりもの』
(作:スーザン バーレイ/訳:小川仁央/評論社)

アナグマの人生を通して、生きることの価値を改めて再発見できる物語。



『犬のくれた ありがとうの涙』
(作:篠原淳子/文庫ぎんが堂)

色々な理由により、心を閉ざし、人を恐れる様になった犬達が、再び人を信じ愛される幸せを手に入れる実話。



『カーリル』知っていますか?

お勧めの本など、ちょっと読んでみたいけどどの図書館にあるのかな?という時に便利なサイトです。パソコンやスマートフォンで「カーリル」を検索してみてください。

- ① 図書館を選びます
- ② 大網白里市を選ぶ 3館(中央分室 図書室 白里分室)
- ③ 探したい本の名前をいれます
- ④ どこの図書室に蔵書があるかで見ます



日本最大の図書館検索サイト

カーリル

【編集後記】

pc、スマホで色々と簡単にすぐに検索できる昨今、本を読む大人も子供も減ってきています。しかし、自分のペースで想像を働かせながら、未知のこと、楽しいこと、ためになることなど本を読むことは、情緒を豊かにし気持ちを安定させます。少しでも本好きの子供達が増えるように読書会は活動しています。

市教育委員会生涯学習課の方々をはじめ、各校の皆さんのご協力により『読書会だより』を発行することができました。心より感謝申し上げます。

増穂中 大西

読書会だより

第36号
令和2年3月発行
大網白里市PTA
読書会連絡協議会



「市PTA読書会連絡協議会」 って、どんな集まり?

大網白里市内の小中学校10校のPTA“図書部”“文化部”など

普段は子ども達への読み聞かせや、図書管理に関する活動を行っている部員さんたちと大網白里市の生涯学習課の方々が構成されています

今年度の活動報告

「命の大切さ」自薦図書

【増穂小 主催 / 参加者55名】

第1回
読書会

令和元年
7月5日



中部コミュニティセンターにて、「命の大切さ」をテーマに自薦図書を持ち寄る読書会が開催されました。4~5人のグループに分かれて、自分の推薦する本の良さを感じた事などを語り合い、その中で一番良いとされた本をグループ事に推薦します。



今回は「命の大切さ」という重いテーマでしたが、自薦される本は、どれも難しくなくあたたかい気持ちになります。どれも読みたくなる本ばかりでした。他の学校の方々と色々なお話をし、情報交換したり、沢山の本と出会えて、とても楽しかったです。などの感想を頂きました。



勉強会

「図書館視察」

【白里中学校 主催 / 参加者34名】

令和元年
10月17日



横芝光町図書館

横芝光町図書館

横芝光町立図書館では、大人向け子供向けの本を別々のスペースに分けてあり、どちらも気兼ねなく本を楽しむことができる空間になっていました。

展示も季節ごとに工夫されていて、何回も図書館に行きたくなる雰囲気作りがされていました。



横芝光町 城西国際大学の図書館を視察しました

城西国際大学図書館

城西国際水田記念図書館はセキュリティ対策がしっかりとされていて、利用者が安心して使用できる様に工夫がされていました。また個室がありPCが使える事、防音設備や専門的な本の見つけやすさなど、学生の為に色々考えられていました。大学の学食も体験でき、とても楽しい勉強会になりました。



城西国際大学
水田記念図書館



ハロウィーン



ほんのもり



講習中

参加者の感想

図書館の工夫の仕方 本配置の仕方などとても勉強になりました。学校の図書室運営に活かしていきたいです。



第2回
読書会

「課題図書」

【大綱中学校 主催 / 参加者33名】

令和元年
11月14日

ずーつと ずつと だいすきだよ

ハンス・ウィルヘルム えいぶん
久山 友市 訳



今年の課題図書

◆ ずーつと ずつとだいすきだよ ◆

ハンス ウィルヘルム：作絵 評論社

犬のエルフィと男の子は大の仲良し、一緒に大きくなりました。でもエルフィは犬だから男の子よりもずっと早く老いていきました。男の子はエルフィが大好きで寝る前には必ず「エルフィ ずつとずつとだいすきだよ」と言ってあげたのでした。エルフィはいたずらばかりしていたので、いつも他の家族には叱られてばかりいました。しかし皆、口には出しませんでしたが皆んなエルフィが大好きでした。ある日目を覚ますと、エルフィは死んでいました。皆んな悲しくてたまりませんでした。でも男の子は毎晩エルフィに「ずつとずつとだいすきだよ」と言っていたのでいくらか気持ちが楽でした。

感想文

- ペットとの死別がテーマの重い内容でしたが、読む世代などにより感じ方が大きく変わる本でした
 - 言葉で伝える事の大切さが良くわかる本です
 - この瞬間を大事に一生懸命に生きる事
 - ペットを実際飼っていた、又飼っていて涙があふれました
 - 恥ずかしがらず、日々愛情と感謝の気持ちを家族に伝える事など
- 様々な感想が得られました

ディスカッション



4つのグループに分けディスカッションをおこないました。

短い時間ではありましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。

